

第4回 湖西市職住近接・未来ビジョンアドバイザーボード 会議議事録

開催日時：令和4年7月5日（火）10時00分～11時30分

会場：湖西市役所 市長公室（オンライン併用）

テーマ：モノづくりの現状とモノづくりの未来

発言者	発言内容
土井委員	<p>【事業承継税制】</p> <ul style="list-style-type: none">・中小企業の政策が様々施されている。中小企業庁もパンフレットなどを作っているが、なかなかきめ細かくは組み込められないという印象を受けた。・国や県が宣伝するというのにも限界があるので、湖西市の企業に対してはやはり湖西市が、商工会等と連携しながら、情報提供、情報発信や困ってることの相談を行い、企業のニーズに応えていくということは非常に重要である。・中小企業の数が減るということはその日本の活力の停滞、低下に繋がると考えている。人口が減ることは抗しがたい。・大事なポイントはM & Aとかも活用しながら、せっかく持っているノウハウや技術を途絶えないように進めていかないと社会経済全体にとっては大きな損失となる。場合によっては、今まで以上にM & Aとかも、テコ入れする必要もあると考える。・規模は小さいが故に利益がだせないという問題が中小企業にはある。今は会社法において会社形態を柔軟に構成できるようになっているので、中小企業も生き残れる工夫を今まで以上にやっていく必要がある。・事業承継税制は時限付きの制度である。今の事業承継税制に至るまで何年もかけて議論してきており、税制としてできることはかなり制度が熟している。税制優遇が活用されるよう、市や商工会などは橋渡しすることが大事である。・税理士には、リスクが伴っても中小企業税制で税制優遇にチャレンジしてもらおうよう私からも呼びかけしていきたい。
袴田委員	<ul style="list-style-type: none">・事業承継税制は、税理士からは「使いづらいから、普通にやりましょう」という話を聞く。自分も事業承継税制を使わずに、株価が見ながら進めた。使い勝手がよくなったという情報があれば利用する経営者も増え、よりスムーズに世代交代できると思う。
岩間委員	<p>【女性の事業承継】</p> <ul style="list-style-type: none">・女性の事業承継は、非常に難しいと認識している。・静岡県の女性経営者団体で、A・NE・GOという団体がある。静岡市の山崎製作所という板金会社の女社長は、自分も事業承継した経験から、女性の事業承継者のお悩み相談会を開いている。・事業承継する人は、なかなか、人に相談できないことが多くある。・相談会では、事業承継では父親と意見が合わないなどの話をよく聞く。・相談会を通じて、経営者同士のネットワークというのはすごい大事なことだなと思う。

・行政にはそういう繋がりをサポートできるといい。

【中小企業のDX推進】

・今の社長の代では、DXを進めるにもハードル高い、人材もいなければ、知識・ノウハウもない。外部委託するとしても頼る先もわからない。

・そのような状況下では、事業承継に合わせて、DX化する中小企業が成功している事例が多い。

【補助金申請のコツ】

・事業再構築補助金は、申請して採択までの期間が長く苦労が多い。書類申請が、1年経ってやっと完結している。申請内容には、新事業展開、売上げの制限があり、会社だけで対応するのが難しい。国では、一生懸命事業を再構築して良くしようと趣旨ではあるが、作文力が求められるため中小企業へのサポートがあると使いやすくなる。

袴田委員

・DX推進は、確かに親の代、その前の代という、会社経営してるお金は、井勘定とよく聞く。製品利益が出ていなくても、実際には出ていないということが多々ある。DXに取り組むことで会社全体のシステムを変えることを考えている。

・その取組においては、自分は方針だけ決めて、それ以降は若い社員がシステムを考えてくれる。自分だけで進めると従業員にとって使いにくいシステムになり全く使えないとなりかねない。実際にそういう話はよく聞く。若い人たちに、参画してもらいながら進めたいと考えている。

・事業承継は、代替わりするタイミングで若手経営者の考え方が非常に大事になると思う。

・補助金は、事業再構築モノづくり補助金を活用させて頂いた。

ストーリーを自分が考えて、金融機関の方と会社の担当者として作成して申請した。ストーリーがすごく重要で、金融機関も商工会も支援頂ける。

井上委員

【経営者育成支援】

・自分の大学は工学系だ、学生は大企業志向が強い。

・大学は、ランキングで評価されることが多く、大企業何社への就職率で、どの企業に就職することが強いというので評価される。大学としても、中小企業への就職を薦めるというのは難しいような状況である。また、学生の気質が昔と変わってきて、チャレンジ精神がないため、大企業に就職し安泰を求める方が多い。

・アントレプレナー教育も進めているが、企業間育成に参加しようという学生もほとんどいない状況である。このような意識を変えないと、日本の将来がないように憂慮している。

・中小企業のお話だが農業も同じ。事業継承がうまくいかない、後継者が育たない。

・豊橋技術科学大学では、リカレント教育という、社会人教育を進めている。農業の参加者は少ないが、参加者の多くが、親の農業を継承する意識が高い。受講者は、工学を取り入れた農業について学んでいる。

・それと同じように、中小企業の方々の経営者育成プログラムとかを湖西市と連携できないかと考えている。若い経営者の育成などに取り組むことで横の連携が構築され経営の学び、IT化ということを学びながら、事業発展をするためのいろいろな分析方

	<p>法を学んでもらう。このような機会を設けて貢献したいという思いがある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・賃金格差が拡大している。特に、大企業と中小企業の間での賃上げ率の格差も拡大しており、私は懸念している。 ・KOSAI Battery Park は、1000 人規模の工場だが、賃金が大企業並みにアップすることが街の活性化や魅力などに繋がると思う。
<p>袴田委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・若手経営者は、非常に不安であり、誰に相談しようか迷うことが多く、育成を勉強させてもらいながら自分の自信になることができればいい。会社経営について勉強する機会がないので、経営者育成については、大変ありがたい提案だと思う。 ・賃金格差は、正直、中小企業は賃金が低いので、Battery Park ができたとき、従業員が辞めてしまわないかと不安に思っている中小企業は多いと思う。
<p>野村委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍もあり、すごく大変な時代を経営者として頑張られてることに感銘を受けた。その変化を敏感に対応して自分たちも順応する考えは本当にすごいと思う。 ・今の時代、情報を持っている人がどう活用、うまく活用している人たちが 1 人勝ちのようになっている。情報がめまぐるしく変化してその手法も技法もそれを手に入れるツールも何もかもがもうハイスピードで変わっていく中で、そこを手に入れられない人たちが右往左往してしまうような今世の中に今はなっている。 ・モノづくりの世界っていうのは前回も農業のことでちょっと熱くなったがすごく守らないといけないと考えている。ところが、モノづくりだけをしていたらいい時代でもなくなってしまった。 ・特に、情報の部分は、金融機関、商工会や市役所も含めて実感したのは、業界の言葉がもう全然違う、文化も違うし言葉が、そこに壁があるように感じている。それぞれの業界の文化、言葉、リテラシーが全然違うため、発展的になっていかない。 ・結局モノづくりの方たちが元気でない、金融機関も困るし、市も困るので、みんなが元気であれば皆にメリットがある。さきほどの補助金申請の話があったが、まさに伴走する方の役割を金融機関、商工会や市役所が担いながら進める、コラボレーションが必要だと思う。 ・ここが定着してくれば、湖西市に来ると何かいい話ができるかもしれない、金融機関、湖西市や商工会に相談すると、市内にある企業が持つ技術で何かと新しい発想ができるという評判が立つように、手厚くみんなで助け合うことが必要だと思う。 ・情報・人材活用においては、最近、若者が動画や映画を倍速で見たり、結末を先に見てしまう、無駄な時間を過ごす不快感を減らしたいという思いで若者が動いている。私達が、やっとヤフー検索グーグル検索に慣れたと思ったら、二、三十代の世代はツイッターで情報を検索する。今の時代はもうテキストで検索もしない。何か情報が欲しいと思ったら、Y o u T u b e 検索をする。 ・昔の価値観が大事だと思っているところがあるが、相手の価値観、新しい時代の価値観も大事だと思う気持ちを持たなきゃいけない。 ・人材不足の話から女性・外国人という話ができるが、女性・外国人は、そのための調整弁ではない。 ・人を大事にするのが中小企業の一番大切なところと思っているので、女性活躍、外

	<p>国人雇用の継続を期待したい。</p>
袴田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・従業員が大切だというご指摘はありがたい。従業員が活躍できるよう大切にしたいと思う。 ・市長から、モノづくり推進室について説明があったが、市も力を入れ始めてくれたと中小企業の私たちは期待している。 ・ネクスト湖西工業研究会を設立した。そこでは、商工会職員、若手5人の経営者と市のモノづくり推進室の職員が参加している。新しいチャレンジで、市の役割も非常に大きい。ご協力頂けることに、中小企業としてはたいへん感謝している。
大倉委員	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援の課題において、夫婦で共に支え合うことが必要なのに男性が仕事に忙殺されて、職場と家庭の間にはさまれているという現状をモノづくりの視点で話を聞いて改めて、課題を感じた。 ・モノづくり経営者となると、深刻で職務に専念できるような環境を作らないといけない。 ・自分は、今、0歳から3歳までの乳幼児と100人以上のケースワークに立ち会うが、その場では、離職した人もいる。その子育て中の母親達が頼れる公的な存在が必要である。そういう場所があれば、健やかな家庭生活の基盤が構築できる。行政が、子育て支援サービスを進めても、家に帰ったら母親が産後うつで子供に影響があれば、父親が昇進しても、営業利益を上げて、家族が崩壊していたら意味がない。 ・経済発展は重要だが、基本となる家族が大事で、子育てとはすぐつながつている。 ・若者は、中小企業には自分が輝ける職場であるというリアルを知りたい。 ・母親達は働きたくても、子供を自分で育ててくれないといけない。現在、共働き率は7割で、保育園に子どもを預けて所得が上がると行政からの補助がなくなるという本末転倒のようなことも起こっている。 ・今の若い人たちは、モノづくりの現場で産前産後ケアなど、休みながら働くことが許されないかと思う。このような支援制度を湖西市ができればと思う。全ての人が活躍できるように受容できる日常がある。そういう子育て働き方が湖西市の中小企業で、できればと思っている。 ・私は、自分が働きたかったから起業した。自分が働きやすいような職場がくれたらと思う。
海野委員	<ul style="list-style-type: none"> ・先月、浜松総局から沼津の東部総局に転勤した。 ・浜松と違って伊豆東部は、観光ってイメージあるかもしれないが、本当に中小企業が多い。 ・特に沼津は螺子、ねじの優秀なメーカーがある。これからどのように事業継承するのか見守っていきたい。静岡県西と東では、抱える課題も違うと思うが、首都圏も近く、いろいろな要素が重なっている。 ・湖西市に関連する話は、ぜひ発信していきたいと考えている。